

●希少がん

人口 10 万人あたり 6 例未満のがんで、数が少ないため診療・受療上の課題が他のがん種に比べて大きいがんです。

希少がんの種類に応じて当院各科で診断後、手術・化学療法を行っています。状況に応じて専門とする施設と連携し最善の治療ができるようにご紹介します。

連携施設：奈良県立医科大学附属病院、奈良県総合医療センターなど

希少がん一覧：<https://www.ncc.go.jp/jp/rcc/about/index.html>

●小児がん

小児がかかるさまざまながんの総称です。一般的には 15 歳未満にみられるがんのことです。代表的なもので白血病、リンパ腫、脳腫瘍などが挙げられます。小児がん診療を専門としている施設へのご紹介します。

連携施設：奈良県立医科大学附属病院など

●AYA世代のがん

AYA世代とは、Adolescent and Young Adult（思春期・若年世代）の頭文字をとったもので、15～39 歳までの世代を指します。AYA世代の患者さんは就学、就職、結婚、出産、子育てなどの様々なライフイベントや環境に応じた診療とサポートが求められます。当院では各科で診断後、手術・化学療法を行っています。状況に応じて専門とする施設と連携し最善の治療ができるようにご紹介します。

連携施設：奈良県立医科大学附属病院、奈良県総合医療センターなど

●妊孕性温存療法

にんようせい妊孕性とは妊娠するための力のことで、将来子どもを授かる可能性を残すために、

がん治療の前に卵子や精子、受精卵、卵巣組織の凍結保存を行う治療のことです。

当院では対象の方には治療開始の前に妊孕性温存について説明し、希望する患者さんには奈良県立医科大学附属病院またはご希望のクリニックへご紹介しています。

●がんゲノム医療

がんゲノム医療とは遺伝子情報に基づくがんの個別化治療の一つです。がんゲノム医療では主にがんの組織を使って多数の遺伝子を同時に調べる「がん遺伝子パネル検査」によって、一人一人の遺伝子の変化や生まれ持った遺伝子の違い（遺伝子変異）を解析し、がんの性質を明らかにすることや、体質や病状に合わせた治療などが行われています。がん遺伝子パネル検査は奈良県立医科大学附属病院、奈良県総合医療センター、近畿大学附属病院などへご紹介しています。